

石澤 善次郎（いしざわ・ぜんじろう）

1、プロフィール

昭和5年にアスナロ短歌会に入会。機関誌「アスナロ」を発刊、編集を担当。横山武夫主宰逝去後は、会の代表となり、東奥日報社の県短歌大会選者、県歌壇役員を長く務めた。

<生没>

1913(大正2)年6月3日～1999(平成11)年6月3日

<代表作>

歌集『山脈』『浜木綿』

故人歌集『羅漢柏の三人』

<青森との関わり>

父多吉、母すゑの次男として青森市博労町67番地(現青柳2丁目8の24)に生まれた。

2、作家解説

大正2年、米穀商の次男として誕生し、昭和6年3月青森県立商業学校を卒業。4月から家業の米穀商に従事、青森米穀卸株式会社監査役、専務取締役、取締役社長、食糧配給公団県支局課長、県食糧事業協同組合連合会理事、副会長等を歴任して県食糧業界の発展に貢献する。

作歌を始めたのは、商業学校在学中に恩師横山武夫より短歌を教えられて以来であり、昭和5年5月、横山武夫主宰のアスナロ短歌会に入会する。それ以後、歌誌「アスナロ」発刊、編集を担当する(44年1月より「アスナロ」は月刊となる。)

藤沢古実主宰国土短歌会入会(14年4月)第一歌集『山脈』発行(30年8月)県歌人懇話会理事となり「青森県歌集」の編集と校正を担当(31年6月より)青森県短歌大会選者(東奥日報社主催、42年9月より)歌誌「アスナロ」創刊50周年記念号発行(54年8月)故人歌集『羅漢柏の三人』発行(石澤善次郎編集、自費

出版(62・2)東奥歌壇選者(63・1より)県歌人懇話会短歌賞、功労賞選者(63年より)主宰者横山武夫逝去のあと、会の代表者となる(平元・8)斎藤真一遺歌集『暁滴集以後』を編著、発行。横山武夫遺歌集『南窓山房吟』を第2歌集『浜木綿』発行(平成8年12月)編著、発行。歌誌「アスナロ」にジュニア欄を設け、中学生の作歌指導育成に務めるなど本県歌壇における文化の向上、発展に貢献した。表彰歴。県文化振興会議会長表彰(平成元年)、第18回青森県歌人功労賞(平成5年)、県歌人懇話会会長表彰、青森市短歌連盟会長表彰(平成6年)、第3回県芸術文化振興功労章(平成7年)。

代表作

山に来て心しづまる夕焼けの映らふ沼の水にむかひて(『山脈』より)

朝の日のいまだとどかぬわが庭にはまゆふの浄き香りただよふ(『浜木綿』より)

3、資料紹介

○歌集『山脈』

図書

1929(昭和4)年～1953(昭和28)年

181 mm × 127 mm

第1歌集。昭和4年から28年までの歌479首を収める。恩師横山武夫主宰の初期アスナロ、国土、再刊後のアスナロ時代の著者が「三方を低い山脈に囲まれているこの青森に育ち、八甲田山の明け暮れに親しみ、山歩きによって友情が更に深まり、作歌の動機となった」と言う深い思いが詠まれている。